合唱団ホームページアドレス　http://www.wiengifu.org

音楽とは 横への感性なり！

3
月号
2019年3月1日
編集・発行/
ウィーン岐阜合唱団

岐阜の街（まち）　ウィーンの如く　音楽（おんがく）し　作：音楽総監督　平光　保

ウィーン岐阜合唱団とのご縁

広島・呉在住　松本正俊先生からのご投稿です

ご縁は、一昨年の夏の定期演奏会で「フォーレのREQUIEM」に参加させて頂いた時から始まりました。最初の練習風景に接して、私はすぐに新鮮な衝撃！を受けました。それは、マエストロ平光氏と伴先生その他の先生たちの体制の中で、あんなに多数のアマチア合唱団（初参加の方も含めて）の方々と一つの音楽を創り上げていこうとした時のあの厳しさ、暖かさ、真剣さなどの伴った熱気に圧倒されたのでした。その後、皆さんに親しく受け入れて頂き、定演にご一緒出来て、この団体の醸し出す空気雰囲気にいっぺんに惚れ込んだのでした。

その後、平光先生から「合唱団ニュース」や演奏会の案内チラシ・プログラム、DVD 等を送って頂いて、貴合唱団とのあの最初の出会いの感激を思い起こし、貴団体の活動をいつも応援の気持ちで注目しておりました。昨年の夏の演奏会も、どうしても聞きたいと願って、妻と一緒に出掛けましたが、期待通りの皆さんの熱演に触れて、本当に満ち足りて帰路に着いたのを今も心温かい思い出としてあります。

仕事の関係で、年末の「第九演奏会」は、いつも聴きに行けません。合唱団ニュース２月号で田丸先生が素晴らしく見事に言葉化された批評文を書かれたのを読ませて頂きましたが、すぐにあの温かで平和な雰囲気を、またコンサートの熱演ぶりを察知出来ました。さらに指揮者を撮ったビデオを送って頂きましたが、それを観て、なお一層当日の感動が伝わってきました。ブラヴォー！！

ところで以前から今年の夏の定演に、高田三郎先生作曲「水のいのち」を取り上げると聞いておりました。皆様には、どれほど知られているかわかりませんが、世界のカトリック教会で 1970 年代に「第２ヴァチカン公会議」という大きな教会会議が開かれました。その折に典礼（礼拝）の大改革が行われたのです。それはそれまで世界中どこでも（日本でも）ラテン語・グレゴリオ聖歌で典礼（音楽）が行われていたのですが、この会議を境に、世界の国々にあってはその国の言葉、文化背景を踏まえた典礼を行う、という決定がなされたのです。

日本カトリック教会では、この決定に従いこの重大で尊い「典礼聖歌」作曲の仕事を、高田三郎氏に依頼しました。そして同氏は、この膨大な量の、しかも信仰の本質に触れる重要な「典礼聖歌」作曲の仕事を無事見事に成し遂げられました。偉大な功績でした。その意味でも文字通り日本の大作曲家の一人と言われる所以だと思います。

実はこの高田氏は、私にとって今の人生を決定づけた恩師と言っていい方です。私が音楽を生業にしたいと願い始め高校時代に、高田三郎先生に音楽大学受験勉強を見てもらいました。そして「宗教音楽をやりたい」と伝えたら、「エリザベト音楽大学に行く事を薦めるよ」と言って下さったのです。そして大学卒業後、様々な場面でお会いし教えを乞うたのでした。その度に親しく丁寧に愛情をもって接して下さったという思い出のある方なのです。

その先生の「水のいのち」を今度の定演でなさることを伺った時、皆さんとご一緒に歌いたいと思いました。幸い平光先生からお許しを頂きました。

皆様の足を引っ張らないようにしますので、どうかお仲間に入れて下さい。よろしくお願いいたします。

松本正俊先生のプロフィール

1947年2月生まれ。北海道札幌市出身。エリザベト音楽大学宗教音楽科卒業、高等学校の音楽教師6年間勤務。日本聖公会司祭として教会の牧師、大学、病院のチャプレン、幼稚園園長など歴任。日本聖公会聖餐式ミサ曲作曲、日本聖公会聖歌集編纂委員、日本聖公礼拝音楽担当委員などを担う。

顔　面　で　唄　う

岐阜本部 テノール 清水 克時

前稿「横隔膜で唄う」（合唱団新聞 2017 年 8 月号）で、発声は　①肺から声帯に空気を送る。②声帯で発生した音を、副鼻腔や、口腔などの共鳴腔にひびかせることで成り立つ、ということを述べました。そして、肺から声帯へ空気を有効に送るための「ふいご理論」を紹介しました。今回はその続きです。プロの声楽家の演奏を聴くと、声が顔面から前に飛んできます。プロは声帯の振動を頭頸部や胸郭に共鳴させて声を前に飛ばします。発声指導では、声を頭蓋骨の上から前に飛ばすとか、額から飛ばすとか、両目をひらいて眼球と眼窩をトランペットのようにして唄うとか、顔面にある筋肉（表情筋）を使うと共鳴はよくなるなどと教わりますが、表情筋を収縮させても、骨で囲まれた副鼻腔の空気室は大きくはなりません。じつは、共鳴には、頭頸部にある腔（空気室）だけではなく、骨や筋肉、脳もからんでいるのです。薄手のブランデーグラスをテーブルにおき、濡れた人差し指でグラスの縁をこすると、プーンという良い音で共鳴させることができます。では、グラスにブランデーをそそいで同じことをしてみると、共鳴はどうなるでしょうか？　音の高さはかわりますが、やはり共鳴します。グラスをテーブルにおいて共鳴させた液体入りのグラスを、ゆっくり傾けてみると共鳴音の高さが変わります。つまり、ブランデーグラスという入れ物がおなじ、ブランデーの量がおなじでも液体の形がかわると共鳴周波数が　かわります。ですから、頭蓋骨や口腔、副鼻腔の入れ物が同じでも軟口蓋、咽頭や喉頭、顔面筋といった実質の形によって、共鳴の周波数が変わるのです。

“空気室と実質のすべてを含めた共鳴器官を使って声を前にとばす”というのが正解だと思います。ただ、どうすればよく共鳴させることができるのかは科学的に完全には解明されていません。軟口蓋を吊り上げる。口腔の形をつくる。口唇、表情筋を使う、ストロー法などなど、いろいろな方法があると思います。ただ間違いなく、だらーっとした表情ではよい声はでません。頭蓋骨や脳は自分でかたちを変えることができませんが、顔面の筋肉（表情筋）は随意筋で、形や硬さを変えることができます。目を開くこと、視線も共鳴に影響します。人間の声は、単なる楽器ではありません。発声する人間自身が、喜怒哀楽という感情を持った生き物であり、感情表現においては、他のいかなる楽器にもないものを備えています。人間の声だからこそ、それを聴く人間の心の琴線に触れることができます。最後に、頭や顔面だけでなく胸腔も共鳴腔です。胸腔はふいごの一部ですが、同時に重要な共鳴装置でもあるのです。ヴァイオリニストがヴァイオリンという楽器についての知識が必要なのと同様に、声楽をきわめようとするには楽器としてのヒトの解剖学が必要なのではないかと思います。

部屋の反響によるフィードバックも共鳴には重要です。教会堂の中で響きを聴きながら演奏すると、伴奏楽器や合唱のハーモニーがさらに良くなり、息を合わせることでアンサンブルができあがります。歌い手が対面で唄うとすばらしい共鳴が生まれることは、リトアニア民族合唱団や veni Gaudere の演奏で学びました。良いハーモニーをつくるのにはどうしたらよいのか。合唱団に入団させていただいて５年、こんなことを考えながら、日々唄っています。

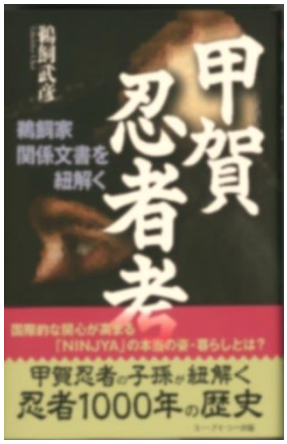
新刊のお知らせ

この度ウィーン岐阜合唱団　岐阜本部バリトンの鵜飼武彦さんが「甲賀忍者考：鵜飼家関係文書を紐解く」を題材にした本を出版文化社から発刊されました。

貸出用の本がありますので、ご興味ある方は、編集部白木迄ご連絡ください。

【概要】甲賀忍者の子孫が紐解く、忍者 1000 年の歴史。国際的な関心が高まる「忍者」の本当の姿。暮しとは。

【著者】鵜飼武彦
慈善活動家・滋賀県甲賀市三大寺に甲賀二十一家鵜飼孫六・鵜飼舎杖の直系子孫として生まれる。関西大学卒業後、岐阜大学大学院地域科学科修士課程修了。地域町興と忍者について研究。
趣味：世界旅行・絵画・短歌・音楽。



♪♪♪ 導かれるように ウィーン岐阜合唱団へ ♪♪♪

～ 入団しました　みなさん どうぞ よろしく お願いします ～

岐阜本部 ソプラノ 関谷 好美

「**12月24日**に演奏会がありますが、行きませんか。」

「**第九演奏会！　行きます。**

ウィーン岐阜合唱団？　そんな合唱団があるんですね。知らなかったです。出場するんですか？」

「合唱団には入ってないけれど、知り合いが入っているからお誘いがあったのよ。」

職場の方から、突然、演奏会のお誘いをいただきました。演奏会10日程前のことでした。話をするうちに、知り合いというその方は、私も以前お世話になったことがあると分かりました。ずいぶん長い間お会いしていませんでしたが、すぐにお顔を思い出すことができました。

演奏会のお誘いをいただく少し前、他の合唱団の方から「合唱をしませんか」とお声をかけてもらっていました。合唱を始めようかなと思っていた矢先のお話だったので、迷うことなく演奏会に行ことを決め、チケットの手配をしていただきました 。

学生時代、大学の合唱団に所属し、定期演奏会やジョイントコンサート、第九にも出演。卒業後も岐阜第九に２度ほど出たことがありました。それから、長い間、合唱から遠ざかっていましたが、昨年の１２月、時を同じくして入団のお誘いや演奏会のお誘いをいただきました。不思議なご縁を感じました。

12月24日、わくわくしながら開演を待ちました。「ハレルヤ」を聴いて心が躍りました。やっぱり合唱はいいな。「第九」が始まると、さらに心は高揚し、仲間と一緒に歌ったあのときの感動が蘇ってきました。**「この合唱団に入って、来年は、私も一緒に第九を歌いたい！」**

ステージで歌っている自分を想像しながら家路につきました。本当に素晴らしい演奏会でした。

1月10日、初めての練習。わくわくしながら長森コミセンへ。入り口で、以前、お世話になった上司（現在はコミセンでお仕事）と会いました。７年ぶりの再会。練習は始まっていましたが、懐かしくて、嬉しくて、しばらく立ち話をしました。

急いで練習会場へ。入ってきた私に気づいて笑顔で迎えてくださった方がお二人。懐かしい。お二人とも、以前、お世話になった方たちでした。どきどきしながら練習に加わった私に、「こちらへどうぞ。」と手招きをして温かく迎えてくださったソプラノの方もいらっしゃいました。とても嬉かったです。初めての練習でこんなに多くの出会いがあるなんて、本当に驚きました。

合唱練習は、言うまでもなく楽しかったけれど、こうした人と人との繋がりが、とても楽しいと思える初日でした。その日に決心しました。

「入団しよう！」

先に誘われた合唱団があったにもかかわらず、ウィーン岐阜合唱団への入団を決めた私。導かれているような何か不思議なパワーを感じました。仕事はもちろん大切だけど、好きなことを大いにやって、もっと、もっと人生を楽しみなさいと言われているような気持ちにもなりました。

「水のいのち」は、初めてチャレンジします。難しいけれどやりがいのある曲です。夏の演奏会がとても楽しみです。頑張ります。
みなさん、どうぞよろしくお願いします。

・音楽が大好き（特に歌うこと　聴くこと）・旅行が大好き
・KOKIA さんが大好き（女性　シンガーソングライター）ファン歴１０年！
　彼女の演奏会、年に数回行きます。オーケストラとも共演できる歌唱力。
（癒やされます。元気もらいます。歌詞、メロディが素晴らしいです。）

入団するまでの経緯や思いを綴ってみました。
　おしゃべり好きの私です。気軽にお声をかけてください。

3～5 月練習予定

練習時間は 18:45～20:45 です（18:30 までに集合しましょう）

月　日	岐　阜	月　日	大　垣
3月　7日（木）	長森コミュニティーセンター	3月　8日（金）	大垣市南地区センター
3月14日（木）	長森コミュニティーセンター	3月15日（金）	大垣市南地区センター
3月21日（祭）	長森コミュニティーセンター	3月22日（金）	大垣市南地区センター
3月28日（木）	長森コミュニティーセンター	3月29日（金）	大垣市南地区センター
4月　4日（木）	**岩　野　田　北　公　民　館**	4月　5日（金）	大垣市南地区センター
4月11日（木）	長森コミュニティーセンター	4月12日（金）	大垣市南地区センター
4月18日（木）	**岩　野　田　北　公　民　館**	4月19日（金）	大垣市南地区センター
4月25日（木）	長森コミュニティーセンター	4月26日（金）	大垣市南地区センター
5月　9日（木）	**岐阜・大垣合同練習　長森コミュニティーセンター　18:45～20:45**		
5月16日（木）	長森コミュニティーセンター	5月17日（金）	大垣市南地区センター
5月23日（木）	**岐阜・大垣合同練習　長森コミュニティーセンター　18:45～20:45**		
5月30日（木）	長森コミュニティーセンター	5月31日（金）	大垣市南地区センター

音楽家の名言 3　（vol－3）

● 桜の花は、冬には咲かない。楽想も、自然が寒くて空虚なときには生まれない。

……R. シュトラウス

何をやっても、うまくいかない時には、時期を待つことも必要。じっと耐え、日頃の精進を怠らなければ必ず道は開ける。

● 私の　ただ一人の愛人、それは音楽である。・・・・・・・・ラヴェル

♪イケメン音楽家の愛したものは？

残された写真からも覗えるようにラヴェルは、身長こそ低かったものの、お洒落に洋服を着こなし、ロマンスグレーの髪、ルックスも抜群の“イケメンの音楽家でした。性格も几帳面で日常使っていた物は全て置き場がきちんと決められていたようです。女性にももてたと思うのですが、これといった熱愛の話もありません。チャイコフスキーと同じく同性愛説もありましたが、これも確たる証拠が挙がってきませんでした。また、大の子供好きでもあったようで、子供目線で話すのですぐに子供と仲良しになれました。そういえば、組曲「マ・メール・ロア」からはそんなラヴェルの愛情がよく伝わってきます。

そして、“イケメン音楽家”のラヴェルが一番愛したものは“やはり音楽”でした。多作家ではなかったラヴェル、自身も語っているように身を削るように、コツコツと緻密に精巧に楽曲を構成し、作曲しました。ストラヴィンスキーが、ラヴェルのことを“スイスの時計職人”とよんだのも頷けます。

最後に、ラヴェルの優しさが伝わるエピソードを。ラヴェルが死の床にあった際に、特に会いたかったのは、これまで自分の身の回りの世話をしてくれた家政婦だったということです。

編集部よりお願い

広く原稿のご投稿を募集しています。

内容はご自分のPRでもOK！です。この新聞は団員相互の親睦・融和を図るものです。奮ってご協力ください。

（担当；坪内まで）

ご投稿窓口：電話 058-231-4700　FAX058-231-4721　e-mail:printshiraki@yahoo.co.jp（担当　白木）